私達　介護職員 頑張ってます。利用者の明日を支える プロジェクト

入浴プロジェクト

「指差し確認が大事だなあ」

入浴プロジェクトでは、「入浴により清潔を保ち、更に心身のリフレッシュを図る」という方針のもと、利用者の身体状況や希望を考慮し、入浴予定表を作成しています。

快適な入浴をして頂く為に、医務との連携を密にし、安全、安心な入浴を常に心掛け、利用者の皆さんに入浴していただいております。

今後も満足していただける様サービスの向上を目指し、日々活動をしていきたいと思います。

排泄プロジェクト

「一緒に行ってみっか？」

排泄プロジェクトでは、出来るだけトイレでの排泄ができるよう、利用者の身体状況に応じた排泄用具を検討工夫しています。オムツ着用の方は、褥瘡やただれになりやすい為、シャワーボトルを使用しての洗浄や清拭の工夫、排便のコントロール等医務との連携を密にする事で「防止」と「初期予防」に配慮しています。

これからもプライバシーを尊重しながら、排泄介助を行っていきたいと思います。

「これが噂の シャワーボトルです」

痴呆性老人対策プロジェクト

痴呆プロジェクトでは、毎日「お達者会」という名称で、皆さんにホールへ集まって頂き、紙芝居や、軽体操、歌など生活の中での楽しみを提供しています。

又、天気の良い日には中庭に出て西山の美しい山々をながめたり、散歩をしたり四季を感じて頂きながら、対話やお茶飲みなどをしています。痴呆のある方々はマンツーマン対応で危険がない様見守っています。

「昔々　あるところに～　あったとさ」

グループワークプロジェクト

グループワークプロジェクトでは、年間を通してのドライブの計画や、レクリエーションの企画、お茶会の開催等を担当しています。その他、趣味活動としてあさがおの育成や手芸、季節を感じて頂ける様な園内の飾り付など楽しいひとときを過ごして頂ける様に頑張っています。

「梅の花ど私　どっちきしぇえだ？」

「どんじょすぐいおもしゃえがったなあ」

半世紀前を振り返って

今回は、半世紀前を振り返っていただきその時、自分がどんな事をしていたか利用者の方々に聞いてみました。

小林みつさん

20才頃から30数年に渡り助産婦をしていらっしゃいました。生命誕生という、素晴らしい場面を経験しておられます。

本人より
『独学で勉強し、産婆養成所に入ったんだ。
子供が生まれると嬉しいなぁ』

須貝栄五郎さん

粋な、東京向島で寿司割烹の板前として腕を振るっていらっしゃいました。
ですから食事には、ちょっと手厳しいコメンテーターであり良きアドバイザーです。

本人より
『お客さんから、板さんと呼ばれてねぃ　喜んで食べてもらうと、嬉しかったねぃ』

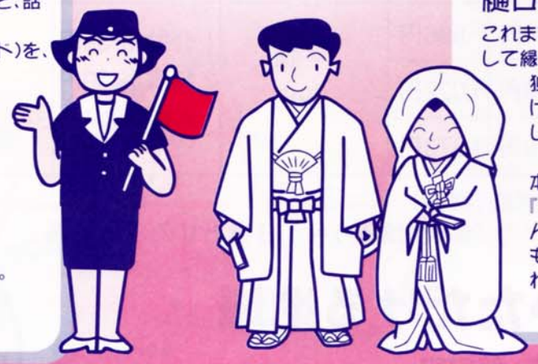
水野喜代さん

「私は看護婦をしていたのよ」と話す喜代さんは、東京の病院で看護婦をしていらっしゃった方です。
日常生活の中においても、その当時を思い出してか、職員に色々とアドバイスをしたり、「嫌なことさせてごめんね」など労をねぎらってくださいます。

沖　三千代さん

私はバスの車掌をしていたと、話してくださいました。
昭和自動車の車掌(バスガイド)を、昭和14年頃までしていらっしゃったとの事で、昔を思い出しお茶会等の席では自慢の喉を披露してくださいます。
三千代さんの十八番は、『憧れのハワイ航路』で、居室にいる時など時折、口ずさんでいるのが、聞こえてきます。
とても明るい車掌さんだったようです。

樋口ときさん

これまでに68組の方々の仲人として縁結びをしてこられました。
独身の職員にも「世話してけるよ」と声を掛けていらっしゃいます。

本人より
『お世話するのが、好きなんだぁ　いい嫁見つけてもらっていがったと言われると、うれしくてよぉ』